

ALL LIVING  
BEINGS ARE CREATED EQUAL

# 徳洲新聞

TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP NEWS

17/OCT. 2016 No. 1053



10月17日 月曜日

www.tokushukai.jp

発行：一般社団法人徳洲会  
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-1-1 麹町311ビル8階  
TEL:03-3262-3133  
制作：一般社団法人徳洲会 編集室  
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-1-1 麹町311ビル8階  
TEL:03-6272-3687 FAX:03-3263-8125  
Email:news@tokushukai.jp

## NPO法人TMAT

### ハイチに先遣隊派遣 大型ハリケーンで被害甚大

NPO法人TMATは、中米カリブ海を北上した大型ハリケーン「マシュー」により甚大な人的・物的被害を受けたハイチ共和国に先遣隊を派遣した。発災から間もない10月8日に日本を發ち、現地では国際医療支援団体である認定NPO法人AMDAと合同で活動。最も被害の大きなハイチ西部を中心に、医療ニーズの調査や訪問先で遭遇した患者さんへの診療活動を行った。

先遣隊は高力俊策医師(隊長、湘南藤沢徳洲会病院外科部長)と西村浩一看護師(松原徳洲会病院)。

ハイチ市民保安庁が7日夜、死者数が800人を超えたと発表(ハイチ政府発表は約300人)。TMATは翌8日、緊急災害対策本部を設置し先遣隊派遣を決定した。同日出発した2人は現地時間9日朝に首都ポルトープランス市に到着。情報収集や物資調達を開始した。



ハリケーンの爪痕が残るジェレミー市内

今回の派遣は当初より、ハイチ支部をもつAMDAの協力を得て合同での活動を計画。10日から医師、歯科医師、看護師、調整員ら5人のAMDAメンバーと、被害の大きな西部の北側沿岸にあるジェレミー市を目指しながら被災地を順次調査。訪れた街の避難所では外傷処置や内科疾患の診察など十数人を診療した。



調査のため訪れた街で患者さんを診療

「ジェレミー市に到着すると壊れた建物や折れた木々が目立ち、ハリケーンの猛威を感じました」(高力医師) 11日はジェレミー市内を調査し国立病院や避難所などを訪問。国立病院ではコレラ対策として隔離病棟を設置するなど対応が取られていた。また、この日開催されたWHO(世界保健機関)とPAHO(全米保健機構)によるWEBミーティングにTMATが招聘され、日本後方支援に当たっていた野口幸洋・事務局員兼ロジスティクス統括(一般社団法人徳洲会主任)と石田亜紗子隊長(湘南鎌倉総合病院国際医療支援室)が参加。コレラ対策が一番のニーズとアナウンスがあった。

外傷系医療のニーズは高くなく、コレラへの対応が優先事項であることから、TMATは先遣隊派遣をもって活動を終了。12日にポルトープランス市を出発、14日早朝に無事帰国した。



ジェレミー市の国立病院を視察する高力医師(右)と西村看護師

近藤副院長は「本審査が近づくにつれて院内の盛り上がりを感じました。『やらなければならぬ』という責任感や一生懸命さが、職員の間で広がったことが合格の決め手だと思えます」と個々の職員の頑張りをたたえる。八木沼正子・看護部長は「患者さんのためになるなら良いことは何でも取り入れる。この積極性は徳洲会の良さのひとつです。JCIプロジェクトを進めるなかで、日々見た目にも院内がきれいになり、各部署の業務の見える化が進みました。これにより多職種が連携し同じ方向に向かっていく土台ができあがりまし

た」と手応えを示す。中津川副主任は「本審査のサーベイヤー(審査員)から『自分が病気になったら、この病院を受診したい』と話す。近藤副院長は「本審査が近づくにつれて院内の盛り上がりを感じました。『やらなければならぬ』という責任感や一生懸命さが、職員の間で広がったことが合格の決め手だと思えます」と個々の職員の頑張りをたたえる。八木沼正子・看護部長は「患者さんのためになるなら良いことは何でも取り入れる。この積極性は徳洲会の良さのひとつです。JCIプロジェクトを進めるなかで、日々見た目にも院内がきれいになり、各部署の業務の見える化が進みました。これにより多職種が連携し同じ方向に向かっていく土台ができあがりまし

た」と手応えを示す。中津川副主任は「本審査のサーベイヤー(審査員)から『自分が病気になったら、この病院を受診したい』と話す。近藤副院長は「本審査が近づくにつれて院内の盛り上がりを感じました。『やらなければならぬ』という責任感や一生懸命さが、職員の間で広がったことが合格の決め手だと思えます」と個々の職員の頑張りをたたえる。八木沼正子・看護部長は「患者さんのためになるなら良いことは何でも取り入れる。この積極性は徳洲会の良さのひとつです。JCIプロジェクトを進めるなかで、日々見た目にも院内がきれいになり、各部署の業務の見える化が進みました。これにより多職種が連携し同じ方向に向かっていく土台ができあがりまし

徳洲会グループはこれまで、湘南鎌倉総合病院(神奈川県)、葉山ハートセンター(同)、札幌東徳洲会病院(北海道)、南部徳洲会病院(沖縄県)の4病院がJCI認証を取得している。湘南藤沢病院は昨夏にモックサー



JCI認証の認定証を掲げる(左から)中津川JCI事務局責任者、篠崎院長、近藤副院長、前川・事務局長

ベイ(模擬審査)を受審、今年8月22日から26日にかけて本審査を受けた。JCI認証は患者安全や品質改善など14カテゴリー・1160項目からなる評価基準をもつ第三者評価。高いハードルが設定されていることから、院内体制の整備など認証取得に向けたプロセスを通じ、病院の質の向上に大きく寄与する。

審査では「適合」が140項目、「部分適合」が20項目で、「不適合」は1項目もないという好成績でクリア。今までにJCI認証を取得した徳

洲会4病院を含め、初受審の結果としては過去最高の成績だ。認証期間は8月27日から3年間。同院の篠崎伸明院長(一般社団法人徳洲会専務理事)は「JCI認証の取得を通じて、医療の質や医療安全の向上・改善に継続的に取り組むための仕組みやプログラムを、当院にインストール(実装)できたと捉えています。認証取得は病院が一丸となった結果です。世界標準の病院としてスタートラインに立った気分です。次のステージに進み、より一層、地域の方

々に患者さんに貢献していきたい」と話す。同院は3年前から認証取得に向けた取り組みを開始。各部門の業務手順書など必須文書の整備や手順書に基づく業務の遂行、JCIが求める施設基準をクリアするための措置などを講じてきた。近藤副院長(呼吸器内科医師)がプロジェクトリーダーとなり、14あるカテゴリーごとに数人ずつのコアメンバーを選定。全職員の1割に当た

る約100人がコアメンバーとして活動し、同院JCI事務局および国際医療支援室の責任者を務める中津川副主任らがプロジェクト全体をマネジメントした。好成績での認証取得の背景には、徳洲会のグループメリットがある。2012年に湘南鎌倉病院がJCI認証を取得したのを皮切りに、順次、取り組みを水平展開して取得病院を増やしてきた。知見やノウハウを共有することで、着実に審査に備えることができた。

「ようやく迎えた本審査でしたので、失敗は許されませんでした。こうしたなか、湘南鎌倉病院のJCIプロジェクトリーダーである権藤学司副院長、田中江里副院長をはじめ各カテゴリーのリーダーによる、鎌倉サーベイという名の予行演習を本審査の1カ月前に実施、的確な指摘をいただきました」(前川俊輔・事務局長)

近藤副院長は「本審査が近づくにつれて院内の盛り上がりを感じました。『やらなければならぬ』という責任感や一生懸命さが、職員の間で広がったことが合格の決め手だと思えます」と個々の職員の頑張りをたたえる。八木沼正子・看護部長は「患者さんのためになるなら良いことは何でも取り入れる。この積極性は徳洲会の良さのひとつです。JCIプロジェクトを進めるなかで、日々見た目にも院内がきれいになり、各部署の業務の見える化が進みました。これにより多職種が連携し同じ方向に向かっていく土台ができあがりまし

た」と手応えを示す。中津川副主任は「本審査のサーベイヤー(審査員)から『自分が病気になったら、この病院を受診したい』と話す。近藤副院長は「本審査が近づくにつれて院内の盛り上がりを感じました。『やらなければならぬ』という責任感や一生懸命さが、職員の間で広がったことが合格の決め手だと思えます」と個々の職員の頑張りをたたえる。八木沼正子・看護部長は「患者さんのためになるなら良いことは何でも取り入れる。この積極性は徳洲会の良さのひとつです。JCIプロジェクトを進めるなかで、日々見た目にも院内がきれいになり、各部署の業務の見える化が進みました。これにより多職種が連携し同じ方向に向かっていく土台ができあがりまし

洲会4病院を含め、初受審の結果としては過去最高の成績だ。認証期間は8月27日から3年間。同院の篠崎伸明院長(一般社団法人徳洲会専務理事)は「JCI認証の取得を通じて、医療の質や医療安全の向上・改善に継続的に取り組むための仕組みやプログラムを、当院にインストール(実装)できたと捉えています。認証取得は病院が一丸となった結果です。世界標準の病院としてスタートラインに立った気分です。次のステージに進み、より一層、地域の方

々に患者さんに貢献していきたい」と話す。同院は3年前から認証取得に向けた取り組みを開始。各部門の業務手順書など必須文書の整備や手順書に基づく業務の遂行、JCIが求める施設基準をクリアするための措置などを講じてきた。近藤副院長(呼吸器内科医師)がプロジェクトリーダーとなり、14あるカテゴリーごとに数人ずつのコアメンバーを選定。全職員の1割に当た

る約100人がコアメンバーとして活動し、同院JCI事務局および国際医療支援室の責任者を務める中津川副主任らがプロジェクト全体をマネジメントした。好成績での認証取得の背景には、徳洲会のグループメリットがある。2012年に湘南鎌倉病院がJCI認証を取得したのを皮切りに、順次、取り組みを水平展開して取得病院を増やしてきた。知見やノウハウを共有することで、着実に審査に備えることができた。

「ようやく迎えた本審査でしたので、失敗は許されませんでした。こうしたなか、湘南鎌倉病院のJCIプロジェクトリーダーである権藤学司副院長、田中江里副院長をはじめ各カテゴリーのリーダーによる、鎌倉サーベイという名の予行演習を本審査の1カ月前に実施、的確な指摘をいただきました」(前川俊輔・事務局長)

近藤副院長は「本審査が近づくにつれて院内の盛り上がりを感じました。『やらなければならぬ』という責任感や一生懸命さが、職員の間で広がったことが合格の決め手だと思えます」と個々の職員の頑張りをたたえる。八木沼正子・看護部長は「患者さんのためになるなら良いことは何でも取り入れる。この積極性は徳洲会の良さのひとつです。JCIプロジェクトを進めるなかで、日々見た目にも院内がきれいになり、各部署の業務の見える化が進みました。これにより多職種が連携し同じ方向に向かっていく土台ができあがりまし

た」と手応えを示す。中津川副主任は「本審査のサーベイヤー(審査員)から『自分が病気になったら、この病院を受診したい』と話す。近藤副院長は「本審査が近づくにつれて院内の盛り上がりを感じました。『やらなければならぬ』という責任感や一生懸命さが、職員の間で広がったことが合格の決め手だと思えます」と個々の職員の頑張りをたたえる。八木沼正子・看護部長は「患者さんのためになるなら良いことは何でも取り入れる。この積極性は徳洲会の良さのひとつです。JCIプロジェクトを進めるなかで、日々見た目にも院内がきれいになり、各部署の業務の見える化が進みました。これにより多職種が連携し同じ方向に向かっていく土台ができあがりまし

た」と手応えを示す。中津川副主任は「本審査のサーベイヤー(審査員)から『自分が病気になったら、この病院を受診したい』と話す。近藤副院長は「本審査が近づくにつれて院内の盛り上がりを感じました。『やらなければならぬ』という責任感や一生懸命さが、職員の間で広がったことが合格の決め手だと思えます」と個々の職員の頑張りをたたえる。八木沼正子・看護部長は「患者さんのためになるなら良いことは何でも取り入れる。この積極性は徳洲会の良さのひとつです。JCIプロジェクトを進めるなかで、日々見た目にも院内がきれいになり、各部署の業務の見える化が進みました。これにより多職種が連携し同じ方向に向かっていく土台ができあがりまし

た」と手応えを示す。中津川副主任は「本審査のサーベイヤー(審査員)から『自分が病気になったら、この病院を受診したい』と話す。近藤副院長は「本審査が近づくにつれて院内の盛り上がりを感じました。『やらなければならぬ』という責任感や一生懸命さが、職員の間で広がったことが合格の決め手だと思えます」と個々の職員の頑張りをたたえる。八木沼正子・看護部長は「患者さんのためになるなら良いことは何でも取り入れる。この積極性は徳洲会の良さのひとつです。JCIプロジェクトを進めるなかで、日々見た目にも院内がきれいになり、各部署の業務の見える化が進みました。これにより多職種が連携し同じ方向に向かっていく土台ができあがりまし

湘南藤沢徳洲会病院(神奈川県)は国際的な医療機能評価であるJCI認証を取得した。徳洲会グループで5施設目、全国では19施設目の取得だ。徳洲会は医療の質や医療安全の向上を目指し、基幹病院を中心に取得を推進。病院一丸となつてJCIプロジェクトを進めた結果、初受審の徳洲会病院としては過去最高の成績で審査に合格した。これを新たなスタートラインと位置付ける同院は、多言語など国際化への対応強化を図りながら、より一層、患者さんに貢献していく考えだ。



全職員でJCI認証の本審査に合格

## JCI認証

# 湘南藤沢徳洲会病院が取得

### 徳洲会5施設目 全国で19施設目

### 徳洲会オンコロジープロ・第6回肺がん研究会

## 第4回症例検討会の演題募集

### 呼吸器部会を開催

徳洲会オンコロジープロジェクトは12月17日、肺がんをはじめとする呼吸器疾患の診療レベルの向上を目指し、大阪市内で第6回肺がん研究会を開催する。徳洲会呼吸器部会の第4回症例検討会を中心に、国内外の最新の肺がん治療のエビデンスを得る機会として、ゲスト講師を招聘、一般講演や特別講演を行う予定だ。

同プロジェクト事務局は現在、症例検討会の演題や同研究会への参加者を募集。とくに演題に関しては積極的な応募を呼びかけており、演題テーマは肺がんなど呼吸器悪性腫瘍や非腫瘍性の呼吸器疾患一般まで幅広い。徳洲会グループ病院で呼吸器診療に携わっている医療従事者であれば誰でも応募が可能。また研究会への参加も幅広い職種からの申し込みを受け付けている。

演題応募の締め切りは11月26日、研究会への参加の締め切りは12月9日。

#### 第6回肺がん研究会

日時:12月17日(土)午後1時半開始  
会場:堂島ホテル(大阪市北区)  
プログラム:【第1部午後1時半~】○徳洲会呼吸器部会「第4回症例検討会」(座長:千葉西総合病院の岩瀬彰彦・呼吸器内科部長、八尾徳洲会総合病院の瓜生恭章・内科部長)  
【第2部午後4時半~】○一般講演(演者:未定、座長:未定)、○特別講演(演者:近畿大学医学部呼吸器外科学の光富徹哉・主任教授、座長:和泉市立病院の福岡正博総長)  
※参加費は無料。宿泊・交通費は各自負担。第2部からの途中参加可能。  
申込み・問い合わせは徳洲会グループオンコロジープロジェクト事務局(未来医療研究センター内 ☎ 03-3263-4801)まで。